

教科名（ 美術 ）

1 生徒の現状分析

観 点	分 析 内 容
知識・技能	・ 用具の正しい使い方や基本的な表現技法を学年に応じて身につけている。 ・ 興味を持って鑑賞に取り組むが、知識としての定着がなく定期考査の得点に結びつかない生徒がいる。 ・ 毎時間の作業目標とその都度の評価を組み合わせることで、集中力と制作スキルの向上があらわれている。
思考・判断・表現	・ テーマの理解やイメージをふくらませるために各段階の適切な参考作品や鑑賞を取り入れた説明をすることで、アイディアスケッチでの集中力を持続できようになっている。 ・ 多くの表現方法を知ることによって新たな発想や、その発想をさらに練った構想へと結びつける段階にある。 ・ 自分自身の作品を大切に制作することで、友だちの作品への見方や共感を深めることを目指している。
主体的に学習に取り組む態度	・ 授業規律を守り、落ち着いて話を聞き、制作に取り組めるようになっている。 ・ 既習事項を元にして、自分なりの工夫の幅を広げた表現に繋げることを目標としている。 ・ 8割の生徒が、授業に向けた準備や提出期日を守れるようになっている。 ・ 遅れている作業分の補充時間を設けても参加しない生徒は減少している。

2 指導方法の課題分析

- （1）授業規律の確立と学習意欲向上のための教室整備。
- （2）他教科や学校行事と連携した題材選択と導入の工夫。
- （3）視覚効果を重視した説明と分かりやすい課題の設定。
- （4）独立した鑑賞学習の工夫。

3 授業改善に向けての方策

- （1）授業に不要な機材はすべて準備室に片付け、広く明るく清潔な美術室を維持する。
- （2）生徒の生活に密着した要素や学校行事や他教科との連携で、題材に必然性を持たせる。
- （3）テーマの理解から作品制作まで、連続した集中力を維持するための参考作品を準備する。
- （4）個々の質問や問題点に対応できるよう、課題の意図に沿った制作準備過程のスケッチや下描きを数多く準備する。必要に応じて授業者が制作する。
- （5）鑑賞における生徒同士の思いの共有方法として、文章を投影したり授業者が代弁したりするなど、場面により対応を試みる。
- （6）生徒が自らタブレットで参考となる画像を検索することで、アイディアスケッチの段階での作業を充実させる。
- （7）毎時間の作業の目標設定と評価を組み合わせ、集中力と作業効率維持の定着を目指す。

4 その他

- （1）自分たちの作品が後輩の参考作品となることで、制作への責任感を育てる。
- （2）導入・技術指導・鑑賞など、ほぼ全ての授業でICTを活用する。
- （3）作業の早い生徒のためのプラス制作を準備する。